

令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	有限会社 劇団かかし座
公演団体名	有限会社 劇団かかし座

内容
<p>【導入 影絵の体験学習】</p> <ul style="list-style-type: none">○光源に対する角度によって影の形が変わったり、光源からの距離によって影が大きくなったり小さくなったりすることを実践しつつ紹介することで、影の性質や影絵で表現する面白さを伝えます。○昔ながらの手影絵やかかし座オリジナルの手影絵を演じてみせ、その作り方を紹介します。 <p>【F 全員参加シーン】 ～台詞・歌・踊りの練習～</p> <ul style="list-style-type: none">○「畑を耕す～エンディング」の演技や踊りを練習し、公演作品に対する期待と参加への意欲を持たせます。 <p>※以下チームに分かれてのワークショップ</p> <p>【A「玉人形」チーム】 ～玉人形の製作とショーの構成～</p> <ul style="list-style-type: none">○上演児童は中～高学年10名程度。(4年生以上が望ましい。)○身近な素材(スポンジボール)でも影絵人形を作り、影絵ごっこができることを学び、劇団員の指導の下、自分オリジナルの玉人形を作ります。そして玉人形の動かし方を習い、ショーの構成(演技)を考えます。○公演当日は午前中リハーサルを行ない、午後の公演で上演します。 <p>【B Hand Shadow Show(手影絵ショー)チーム】 ～手影絵の学習とショーの構成～</p> <ul style="list-style-type: none">○上演児童は高学年10名程度。(5年生以上が望ましい。)○代表的な手影絵数種類を学んだ後、その組み合わせによる音楽にのせた楽しいショーを製作し、練習します。○公演当日は午前中リハーサルを行ない、午後の公演で上演します。 <p>【C 台詞(シエト応援隊)チーム】 ～台詞の練習～</p> <ul style="list-style-type: none">○共演児童は低～高学年10名程度。○影絵劇「シエトの冒険」の中で、シエトを応援する仲間として、語る台詞を習い、練習します。○公演当日は午前中に簡単な確認のリハーサルを行ない、午後の公演では台詞で共演します。

【D 合唱チーム】 ～劇中歌の練習～

- 共演児童は中～高学年 10 名程度～。(ないし音楽クラブの児童など。)
- 影絵劇「シエトの冒険」の中の、「村に伝わる歌」「シエトが冒険に向かう歌」など、物語のキーとなる歌を習い練習します。(公演日までに練習を重ね、歌を覚えてもらえることを希望します。)
- 公演当日は午前中に簡単な確認のリハーサルを行ない、午後の公演では合唱で共演します。

【E 妖精チーム】 ～台詞と踊りの練習～

- 共演児童は高学年の女子 10 名程度。
- 影絵劇「シエトの冒険」の登場人物である妖精の、台詞と踊りを習い練習します。
- 公演当日は午前中にリハーサルを行ない、午後の公演で共演します。

※それぞれの参加人数や内容については、学校のご希望に合わせて検討、調整します。
D は参加人数増が可能です。

タイムスケジュール (標準)

(例)

8:30 機材搬入、打合せ。

9:30WS 参加児童集合(本公演で共演しない児童の参加も OK です)

9:40WS 開始(全員参加)→11:10 休憩→共演児童は各チームに別れて練習や作業をします。

11:00 共演児童全チーム集合、発表と全体練習。11:30 終了。片付け、本番公演の打合せ。

12:30 撤収。

派遣者数

主指導者 1 名、補助者 4 名 合計 5 名

学校における事前指導

事前に楽譜・CD 音源を送付しますので、参加者がそれらを事前に確認しておくことで WS がよりスムーズになります。

令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

制作団体名	有限会社 劇団かかし座
公演団体名	有限会社 劇団かかし座

演目
「Wonder Shadow Labo」 (ワンダー シャドウ ラボ) 脚本・構成・演出/後藤圭、「シエトの冒険」台本/若林一郎、 児童参加プラン/太宰久夫、 音楽/石川洋光、 衣裳/中矢恵子 、共演児童衣装・小林巨和、 振付/楠原竜也、児童参加部分の振付/神崎由布子 舞台監督/杉村向陽、高橋信濃(Mals A Sol) 音響/山北史郎(山北舞台音響) 、照明/坂本義美(龍前舞台照明研究所) 、 影絵美術監修/後藤圭、 影絵美術/劇団かかし座美術部、小田純治、小島直子、とうたいよう

派遣者数
出演者4名、スタッフ5名 合計9名

タイムスケジュール (標準)
(例) 7:30 到着 7:30～10:30 仕込み (9:30 打合わせ) 10:30～11:25 リハーサル 13:30～15:00 本公演 (休憩10分) 15:00～15:20 事後交流。 15:20～17:00 撤去。 17:30 退出。

実施校への協力依頼人員
共演時に先生の補助が必要な場合を除き、原則ありません。

演目解説

『Wonder Shadow Labo』は、平成 27 年度文化庁「トップレベルの舞台芸術創造事業」で文化ホール上演作品として制作・上演した『Wonder Shadow』を、学校でも上演可能な作品として改編したものです。影絵表現の仕組みと面白さ、不思議さを影絵実験ショーとして上演します。

実験室を模した舞台セットの中、俳優たちは日々影絵の研究に取り組む博士と研究員(Dr. シャドウ)に扮し、作品は進行していきます。Part1~3の3部構成となっており、Part1,2 では Dr. シャドウたちが身近な素材や自分の身体で様々な影絵表現ができることを実験を通して提示し、Part3では Dr. シャドウたちがそれら影絵表現を用いてお話を上演する劇中劇になっています。特にPart3の「シェトの冒険」は美しい影絵と数々の音楽・歌が合わさり、かかし座オリジナル、ミュージカル仕立ての楽しい演劇作品になっています。

【Part1】 Dr. シャドウの影絵ラボ 30分

ちょっと頼りない博士とDr. シャドウたちが、秘密の実験室で繰り広げる楽しい影絵実験ショー。ボールやハンカチ、積み木から不思議な影が次から次へ現れる!皆がやってみたくなるワクワクドキドキの実験ショーです。

【Part2】 Hand Shadow Show 上演 15 分

手と体だけでいろいろな動物の影を紡ぎ出してみせる、劇団かかし座得意の「Hand Shadow Show」。世界中のフェスティバルや TV 番組でも大人気のパフォーマンスです。かかし座と合わせ、事前ワークショップで指導した児童による上演も行います。

【休憩 10 分】

【Part3】 影絵劇「シェトの冒険」上演 35 分

お話を作った博士は、Part1,2 の手法を用いて Dr. シャドウたちとお話ごっこを始めます。

[あらすじ]遠い遠いどこかの国で、雨が降らずに困っている村があった。そこには何とかして村人の役に立とうとする勇気のある少年がいた。名前はシェト。シェトは村の古くからの言い伝えを信じ、雨を降らせるドラゴンを探す旅に出る。途中、小人や妖精を助けたシェトは、彼らから様々な助けを得る。しかしその旅は困難の連続で...

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

A. 玉人形ショーの上演 (中～高学年4～10人程度 ※偶数が望ましい)

事前ワークショップで製作し構成を考えた玉人形によるショーを、音楽にのせて上演します。当日リハーサルあり。

B. Hand Shadow Show上演(Part2) (高学年10人程度)

事前ワークショップで学び取り組んだ手影絵によるショーを上演します。当日リハーサル有り。

C. 台詞(シェト応援隊)での共演(Part3) (中～高学年10人程度)

事前ワークショップで学んだ台詞を俳優と共に語ります。当日簡単なリハーサル有り。

D. 合唱での共演(Part3) (中～高学年10人程度)

事前ワークショップで学んだ劇中の歌を俳優とともに歌います。当日簡単なリハーサル有り。

E. 妖精たち(台詞と踊り)による共演 (高学年女子4～10人)

事前ワークショップで練習した台詞と踊りで参加します。簡単な衣装を身につけます。当日リハーサルあり。

1. 洞窟の中(台詞)

シェトが岩に挟まれた妖精(人形・俳優)を助け出すと、妖精たち(子どもたち)は舞台上に現れて、シェトにお礼を述べ、洞穴の出口まで案内すると伝えます。

2. 洞穴の出口(台詞)

出口にたどり着いたシェトに妖精たち(人形・俳優と子たち)は、「困ったときには必ず助けに来る」と語りかけ、送り出します。

3. 山頂のお城、石のドラゴン(台詞と踊り)

立ち尽くすシェトの前に、妖精たち(子どもたち)が現れます。シェトにランタンを台に置くと、音楽が流れ始めます。それをきっかけに妖精たちは魔法の言葉を唱え、舞台を踊りながら横切ります。

4. 畑を耕すシェト(踊り)

妖精(人形・俳優)の「育て棒」の一振りに合わせ、妖精たち(子どもたち)は舞台を踊りながら横切ります。

F. エンディングでの全員参加(Part3)

鑑賞していた児童全員が村人となりお芝居に参加します。(その場で耕す演技をし踊る。)(客席での参加)

※A~Eの各チームに参加分けすることにより、相当数の児童の参加が見込まれます。
またFで全児童の芝居の参加体験が可能となります。
※結果、観客児童と俳優とによる参加型お芝居が成立し、芝居に参加した達成感と充実感を共有できます。
※学校の状況に合わせ、参加する学年や人数について相談に応じます。A~Fの一部を実施することも可能です。

児童生徒とのふれあい

終演後、希望で、舞台裏見学や記念撮影を行いながら子どもたちから感想を伺い交流を深めます。